

平成24年度
(平成23年度対象)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

印西市教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
1 趣旨	2 頁
2 点検評価の対象	2 頁
3 点検評価の方法	2 頁
4 点検評価結果の構成	2 頁
参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (第 27 条)	3 頁
5 印西市の教育施策	4 頁
6 主な施策	5 頁
新市基本計画を基にした「教育施策の体系」	7 頁
点検評価結果	9 頁
目次	10 頁
評価結果	11 頁
おわりに	29 頁
1 評価内訳	30 頁
2 施策別評価	32 頁
3 まとめ	32 頁

はじめに

1 趣旨

市教育委員会では、平成17年度から教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、この基調による目標のもと、実施に努めているところですが、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、「教育委員会は、毎年その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表すること」となりました。昨年度は、平成22年度「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成23年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成23年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民のみならずご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成23年度版印西市の教育施策（以下「教育施策」という。）中の主な施策における事業の実施内容について、点検を行い、印西市教育委員会としての自己評価を報告書としてまとめました。

3 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な施策」毎の事業に係る「事業内容」について、その具体的実施事業及びその状況を明らかにし、この実施内容に基づき、施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとします。なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、学校教育、生涯学習、スポーツ振興それぞれの分野の学識経験者の皆様（元市学校長、元市社会教育指導員、市体育協会役員）に、御意見をいただきました。

（点検評価の流れ）

○事業点検…主な施策毎の事業内容点検（点検者：担当課長）

↓

○施策評価…主な施策評価（評価者：教育長、部長。学識経験者知見活用）

↓

○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

4 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な事業」における「事業内容」を平成23年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、

「主な施策」毎に内部評価しています。

表の項目について

○事業……「主な事業」毎に掲げている事業です。

○事業内容（平成23年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、平成23年度の事業計画書であり、教育施策中の主な事業における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、（平成23年度目標）と位置付けています。

○平成23年度実績……平成23年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○施策評価……「主な事業」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「A、B、C」の三段階評価とし、以下の内容を基準としています。

A 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

B 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○評価理由……「A、B、C」の評価を行った理由を示しています。

○今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

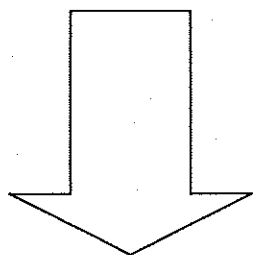
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育施策の基調

健やかな心と体を育む教育



主な施策

I. 学校教育の充実

- ◆健やかな心と体を育む教育の推進
- ◆活力ある学校づくり
- ◆学校・家庭・地域の連携強化

II. 生涯学習の推進・青少年の健全育成

- ◆生涯学習機会の提供
- ◆生涯学習ネットワークの形成
- ◆青少年の健全育成の推進

III. 地域文化の振興と文化財の保護

- ◆芸術・文化の振興
- ◆文化財の保護と活用
- ◆市史編さん事業の推進

IV. スポーツの振興

- ◆スポーツ環境の整備
- ◆スポーツ機会の充実
- ◆スポーツ推進体制の整備

6 主な施策

I. 学校教育の充実

- ◆健やかな心と体を育む教育の推進
- ◆活力ある学校づくり
- ◆学校・家庭・地域の連携強化

21世紀の変化の激しい社会を担う子供たちには、基礎基本の学力を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとする課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力。自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心。たくましく生きるための健康や体力などの教育が求められている。

その中でも特に、本市では健やかな心と体を育む教育を基調とし、道徳教育の充実や豊かな体験活動、芸術文化体験事業や読書活動の推進、教科体育の充実、運動部活動の推進や小学校駅伝競走大会、食育や生活習慣づくりなどを通して健やかな心と体の育成に向けて取り組んでいく。

活力ある学校づくりとして、教育課題の調査、研究、開発を基盤に、特色ある教育課程の工夫、確かな学力の育成、校内研修の充実、指導法の工夫改善等を積極的に行っていく。

学校・家庭・地域の連携強化に向けて、子供たちが安全で安心な学校生活を送れるよう教育環境づくりを進めていく。また、学校ホームページによる情報提供や学校支援ボランティア事業を中心に地域に開かれた学校づくりに向けて取り組んでいく。

II. 生涯学習の推進・青少年の健全育成

- ◆生涯学習機会の提供
- ◆生涯学習ネットワークの形成
- ◆青少年の健全育成の推進

生活水準の向上や余暇時間の増大等により、日々の暮らしに生きがいを感じ、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となってきた。また、市民の価値観も多様化し、身近な地域や家庭生活でも大きな変化に直面しており、絶えず正しい情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

そこで、市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、生涯学習まちづくり推進基本構想に基づき、「市民の力」を地域の活力として活かしていくため、いつでもどこでもだれもが、生涯にわたり様々な分野で学ぶことのできる学習環境づくりに努め、市民主体の活動を広く支援していく。

さらに、市民に学習の場を広く提供するため、公民館や図書館、高等教育機関等のネットワークの確立、社会教育関連施設の連携の強化に努め、生涯学習に関する施策を総合的かつ効果的に推進していく。

また、地域社会の連帯感が希薄化する中で、次代を担う子供たちの可能性や個性を伸ばし、豊かな人間性や創造性を養うため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を再確認し、連携・協力しながら地域ぐるみでの青少年育成体制づくりを支援し、青少年の健全育成を推進する。

Ⅲ. 地域文化の振興と文化財の保護

◆ 芸術・文化の振興

◆ 文化財の保護と活用

◆ 市史編さん事業の推進

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

地域文化は、古くからその地域の自然・歴史・伝統と共存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって生まれ、独自の文化を形成してきた。しかるに、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承されてきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

こうした中で、市民一人一人が地域の文化芸術に親しみ、活動することを通じて、魅力に富んだ地域文化が継承、創造されることが求められている。

そこで、市民の活動の道しるべとなる生活技術や習慣などを今に伝えている文化財を保護し、積極的な調査研究や保存活用に努め、伝統文化の振興を図るとともに、市民の自主的で創造的な文化芸術活動を推進し、学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、市民が文化創造の担い手として文化を育み続けるまちづくりをめざす。

Ⅳ. スポーツの振興

◆ スポーツ環境の整備

◆ スポーツ機会の充実

◆ スポーツ推進体制の整備

スポーツ・レクリエーション活動は、心身の健全な発達や健康の維持管理に欠かせない重要な要素である。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となってきている。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そしてライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

このことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充を推進する。

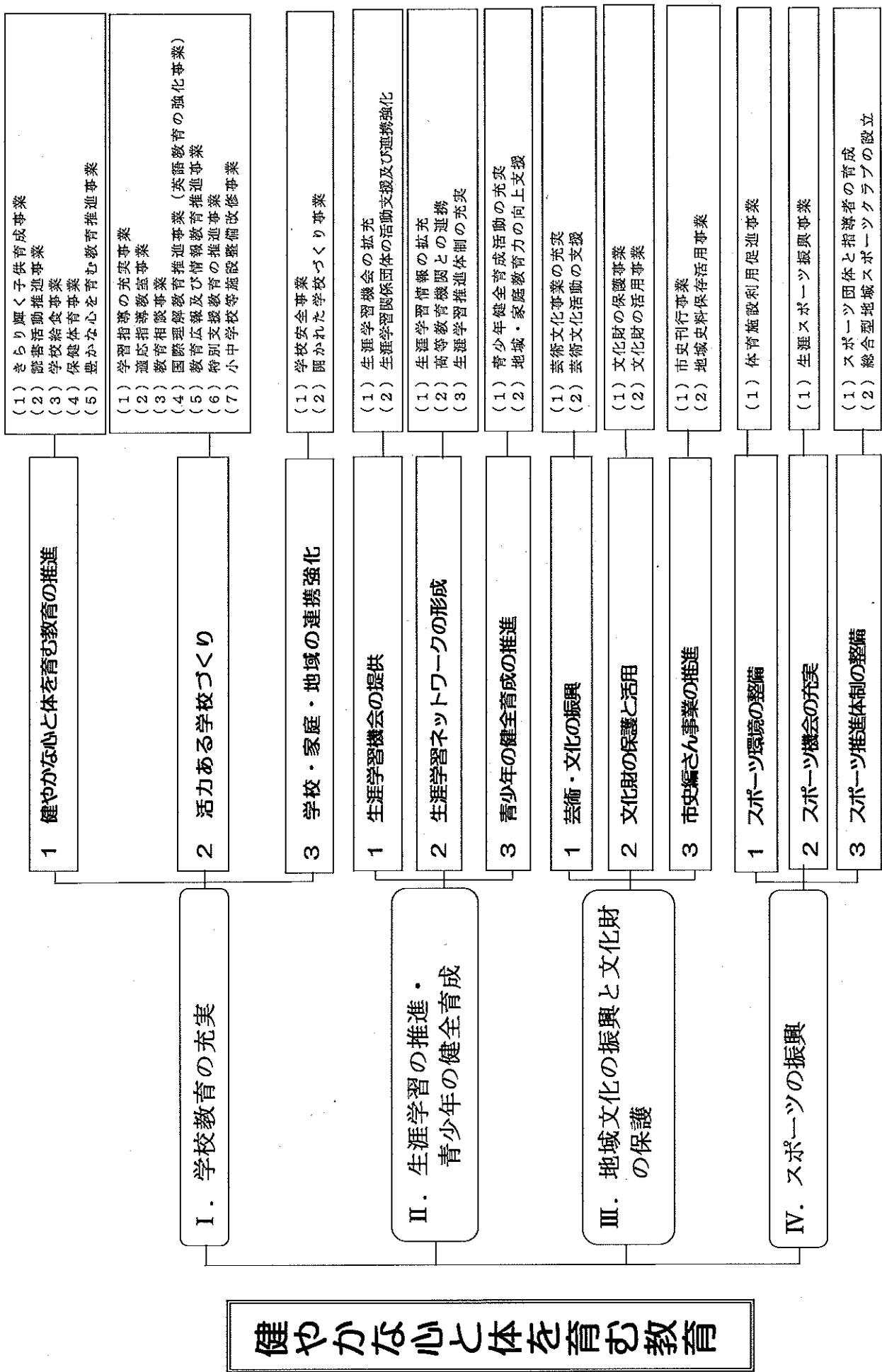
新市基本計画を基にした「教育施策の体系」

基調

主 な

施 策

主 な 事 業



点検評価結果

点検評価結果 目 次

I. 学校教育の充実

1 健やかな心と体を育む教育の推進

- (1) きらり輝く子供育成事業 11頁
- (2) 読書活動推進事業 11頁
- (3) 学校給食事業 11頁
- (4) 保健体育事業 12頁
- (5) 豊かな心を育む教育推進事業 13頁

2 活力ある学校づくり

- (1) 学習指導の充実事業 13頁
- (2) 適応指導教室事業 15頁
- (3) 教育相談事業 15頁
- (4) 国際理解教育推進事業（英語教育の強化事業） 16頁
- (5) 教育広報及び情報教育推進事業 16頁
- (6) 特別支援教育の推進事業 16頁
- (7) 小中学校等施設整備改修事業 17頁

3 学校・家庭・地域の連携強化

- (1) 学校安全事業 17頁
- (2) 開かれた学校づくり事業 18頁

II. 生涯学習の推進・青少年の健全育成

1 生涯学習機会の提供

- (1) 生涯学習機会の拡充 19頁
- (2) 生涯学習関係団体の活動支援及び連携強化 19頁

2 生涯学習ネットワークの形成

- (1) 生涯学習情報の拡充 20頁
- (2) 高等教育機関との連携 20頁
- (3) 生涯学習推進体制の充実 21頁

3 青少年の健全育成の推進

- (1) 青少年健全育成活動の充実 21頁
- (2) 地域・家庭教育力の向上支援 22頁

III. 地域文化の振興と文化財の保護

1 芸術・文化の振興

- (1) 芸術文化事業の充実 23頁
- (2) 芸術文化活動の支援 23頁

2 文化財の保護と活用

- (1) 文化財の保護事業 23頁
- (2) 文化財の活用事業 24頁

3 市史編さん事業の推進

- (1) 市史刊行事業 25頁
- (2) 地域史料保存活用事業 25頁

IV. スポーツの振興

1 スポーツ環境の整備

- (1) 体育施設利用促進事業 26頁

2 スポーツ機会の充実

- (1) 生涯スポーツ振興事業 26頁

3 スポーツ推進体制の整備

- (1) スポーツ団体と指導者の育成 27頁
- (2) 総合型地域スポーツクラブの設立 27頁

主な施策

I. 学校教育の充実

1 健やかな心と体を育む教育の推進

(1) きらり輝く子供育成事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①きらり輝く印西の子供育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動推進事業 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○ものづくり体験学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動が特に顕著な9校を中心に、全ての学校の教育活動を支援した。 ○小学校20校の参加により実施。男女合わせて64チームが出場した。 ○原山小学校及び西の原小学校においてものづくり教室を開催し、講師の匠の技に触れさせることができた。

施策評価	B
評価理由	三つの事業を通して、印西教育の特色を打ち出すことができた。
今後の課題	ものづくり体験学習の、年間当たりの実施校を増やしていくこと。

(2) 読書活動推進事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①図書館教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館図書資料の整備充実 ○読書の奨励と指導の充実 ○市図書館司書との連携 (学校図書館担当者会議の開催) ○学校図書館司書の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館システムを導入した。 ○図書ボランティアによる読み聞かせの実施、図書館だよりの発行。 ○学校図書館担当者を含めた会議を2回、学校図書館司書と市図書館司書との連絡会を年5回実施した。 ○全中学校へ5人配置 (5人で9校) した。

施策評価	B
評価理由	学校図書館システムを導入し、学校図書館環境の充実が図られた。
今後の課題	学校図書館司書を小学校へも配置すること。

(3) 学校給食事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士による栄養教室の開催 (全小学校1・3年生対象) ○生活習慣病予防教室 (全小学校5年生・全中学校1年生対象) ○望ましい食習慣の形成 ○「食に関する指導」の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小学校1年生・3年生を対象とした栄養教室を実施した。 ○学校給食センター栄養士が、小学校5年生及び中学校1年生を対象に小児生活習慣病予防のための指導を行った。 ○学校給食センター栄養士が小学校5年生及び中学校1年生を対象に小児生活習慣病予防のための指導を行った。 ○給食センター栄養士との連携を図り、授業支援を行った。
②学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉県産食材を6割以上使用し、千産千消を推進した。 ○真空冷却機の導入により、適切な温度管理が行えた。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し、その再資源化を図った。

施策評価	B
評価理由	学校給食について、印西市産の食材を多く使用し、地産地消を推進した。
今後の課題	残渣を減らすために、食に関する学習を一層充実させること。

(4) 保健体育事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①学校体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議及び体育科研修会の開催 ○体力・運動能力テストの調査と活用 ○小学校体育祭及び千葉県小中学校体育連盟印旛支部行事への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を1回、実技研修会を2回実施した。 ○テスト結果を分析し、学校保健体育事業の改善を図った。 ○役員への派遣並びに児童送迎用のバスの配車を行った。
②運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材の活用推進 ○各種大会への参加支援 ○中学校運動部活動サポーターの派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材に関する情報を体育主任会議において提供し、中学校での活用を図った。 ○各種県大会及び関東大会並びに全国大会の交通費等の経費について支援を行った。 ○18名の部活動サポーターを派遣し、競技力の向上を図った。
③健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材(血管モデル)を各学校へ貸し出し、事業の充実に努めた。 ○歯科保健指導教材(位相差顕微鏡・かみかみセンサー)を各学校へ貸し出し、歯科保健事業の充実に努めた。 ○北総地区少年センター職員を講師とし、薬物乱用防止教室を実施した。
④学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 ○各専門部会(学校薬剤師、栄養士、養護教諭)の活動の支援 ○「印西市の学校保健」(小冊子)と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健会理事会を1回開催した。 ○学校薬剤師部会2回、栄養士部会3回、養護教諭部会5回開催した。 ○「印西市の学校保健」(小冊子)年1回と学校保健会報を年3回発行した。
⑤健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実(治療勧告) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等)及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を集計・分析し、「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
⑥小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討会の開催 ○小児生活習慣病予防検診の実施(小学校5年生、中学校1・3年生対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。 ○小学5年生、中学1年生・3年生を対象に実施するとともに、事後指導を行った。
⑦口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科保健検討部会の開催 ○予防教室の実施(ブラッシング指導) 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、その結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導等について検討した。 ○各小中学校において、学校歯科医又は歯科衛生士等による歯科衛生教育、ブラッシング指導を実施した。
⑧保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○カウンセリング機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭を対象とした研修を実施した。
⑨学校環境衛生の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○環境衛生検査の実施(水質検査、照度検査、空気検査等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○照度・照明検査、飲料水・プール水質検査、空気環境検査(ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素)、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	B
評価理由	健康教育を教育課程に位置付け、健康の維持増進に努めた。
今後の課題	中学校学習指導要領の改訂に伴い、武道の外部指導者の派遣体制を整備すること。

(5) 豊かな心を育む教育推進事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の改善と道徳授業の充実 ○道徳的実践力を育成する道徳授業の充実 ○心のノート活用推進 ○ピア・サポートプログラムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校において道徳の授業研究を実施し、授業力の向上を図った。 ○道徳集中研修会を主催し、全小中学校において授業研究を通じた授業改善の機会を設けた。 ○道徳研修会において、「心のノート」の活用例を示し、道徳の時間等における有効な活用を図った。 ○全小中学校で実施し、コミュニケーション能力の向上を図った。
②豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動、交流体験活動等の推進 ○みどりの少年団活動の推進 (全小中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校の教育活動に位置付け、実施した。 ○全小中学校が参加し、栽培活動や自然体験活動等を行った。
③人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校人権教育全体計画の改善と指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての小中学校において、人権研修会を実施した。また法令等を再認識し、学校での取り組みについて指導した。
④生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導の機能を活かした授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校であいさつ運動に取り組み、よりよい人間関係づくりを図った。
⑤郷土愛を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・地域の歴史資料室の設置と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や学校の特色を活かした歴史資料室を設置し、社会科や総合的な学習の時間において活用を図った。
⑥芸術文化体験事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校が参加し、合奏と合唱を行った。 ○小学校6年生を対象に古典芸能である狂言と落語を鑑賞した。

施策評価	B
評価理由	様々な人々や自然等との交流体験活動を通して、豊かな心を育むことができた。
今後の課題	一つ一つの事業をよく検証し、学校間で情報を共有させ、その成果を基により効果的な事業の展開に努めること。

2 活力ある学校づくり

(1) 学習指導の充実事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①確かな学力を育み、個性や能力を伸ばす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導の機能を生かした授業づくり ○基礎学力向上の推進 (ドリルタイム等) ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○学力向上プロジェクトの実施 ○学校支援ボランティアの活用 ○教職インターンシップ「あすなる先生」の派遣 (秀明大学との連携) ○少人数学習指導員の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の要請により年781回の訪問を行い、一人一人に自己存在感をもたせる授業づくりについて指導した。 ○各学校にドリルタイム等の設定を勧め、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○少人数指導や学級編制の弾力的運用を通してきめ細かな指導を行った。 ○全教職員が学習指導案を作成し、授業研究を行い指導主事を積極的に派遣した。 ○398名のボランティアを延べ499回活用し、学習指導の充実と学校環境の整備を図った。 ○小中学校に16名を派遣し、学校の活性化を図ることができた。 ○小中学校に16名を配置した。
②教育課題調査・研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力調査と活用 ○教育に関する調査・研究・開発 ○教育研究の奨励・普及 ○教材の研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉県標準学力検査結果の分析と考察を行い、各学校等に配布した。 ○学習意識・生活状況調査を実施した。 ○学校研修のあり方、教科指導等に関する情報の提供を適宜行った。 ○新教育課程に対応した学習指導の方法に関する研究を行った。

<p>③教職員・幼稚園職員研修の充実</p>	<p>○保育実技研修会への参加奨励</p> <p>○園内研修会の開催</p> <p>○教務主任研修会の開催</p> <p>○研究主任研修会の開催</p> <p>○生徒指導担当者研修会の開催</p> <p>○情報研修会の開催</p> <p>○国際理解教育担当者研修会の開催</p> <p>○学校図書館担当者研修会の開催</p> <p>○体育主任等研修会の開催</p> <p>○安全主任等研修会の開催</p> <p>○養護教諭研修会の開催</p> <p>○特別支援教育コーディネーター研修会の開催</p> <p>○長欠担当者研修会の開催</p> <p>○若年層研修の充実</p>	<p>○夏期保育実技研修会へ参加した。(2日間)</p> <p>○リズム研修を実施した。(2回) また、道徳教育の公開保育を実施した。</p> <p>○全小中学校で教育課程の編成について研修した。</p> <p>○各教科の研修に併せて実施した。</p> <p>○各小中学校において年2回の研修会を実施した。</p> <p>○各小中学校において年2回の研修会を実施した。</p> <p>○ALTとの授業の活用方法について年2回実施した。</p> <p>○図書館担当の役割と市立図書館との連携について実施した。</p> <p>○全小中学校体育主任等を対象に年2回実施した。</p> <p>○スクールメールシステムの活用方法について実施した。</p> <p>○校務システムの活用方法について実施した。</p> <p>○役割とその取組について研修を実施した。</p> <p>○長欠担当の役割りについて研修を実施した。</p> <p>○学校の要請により、各教科等の研修会を実施した。</p>
<p>④新教育課程実施に向けての支援</p>	<p>○新学習指導要領移行措置支援</p> <p>○新教育課程の編成及び実施の支援</p>	<p>○各教科・領域等での研修会を実施し、14講座435名の参加があった。</p> <p>○研修会や関係資料の情報提供を実施した。</p>
<p>⑤校内研修の支援</p>	<p>○授業研修での指導・助言</p> <p>○評価についての研修の支援</p> <p>○印教連指定校(木刈小学校「国語科」)の支援</p>	<p>○思考・判断・表現力の育成を行った。</p> <p>○学校の要請による授業研究会等において、評価規準や評価方法についての指導を行った。</p> <p>○授業研修会での指導・助言及び学習環境整備への支援を年6回行った。</p>
<p>⑥指導法等の研修の充実</p>	<p>○教材研究等に関する研修会の開催</p> <p>○学習指導法等に関する研修会の開催</p> <p>○実技研修会の開催</p> <p>○ICT活用研修会の開催</p> <p>○情報教育研修会の開催</p> <p>○特別支援教育研修会の開催</p> <p>○人権教育研修会の開催</p> <p>○コミュニケーション教育研修会の開催</p>	<p>○教育センターにおいて、14講座435名の参加があり、指導力の向上に努めた。</p> <p>○体育科、理科やICT関連の実技研修を実施した。</p> <p>○体育科やICT関連の実技研修を実施した。</p> <p>○教科指導における情報教育やICT活用研修を実施した。</p> <p>○介助員を含めた研修を年2回実施した。 ○通常学級における特別支援教育の研修会を実施した。</p> <p>○全小中学校において、人権研修を実施し、指導主事が指導にあたった。</p> <p>○教育相談、道徳研修会に併せて実施した。</p>
<p>⑦市教育研究会支援事業</p>	<p>○教職員による自主講座の開催</p> <p>○市教育研究会運営支援</p> <p>○市教育研究会への指導・助言</p> <p>○各研究団体の活動支援</p>	<p>○小中教職員70名を対象に管理運営に関する研修を実施した。</p> <p>○指導主事の派遣による指導助言を行った。</p> <p>○要請に応じ、指導主事を派遣した。</p>

施策評価	B
評価理由	学力・健康体育の向上を目指し、指導主事を積極的に学校に派遣し、指導・助言にあたった。また、児童生徒の学力・体力・社会性の向上を図ることができた。
今後の課題	事業内容の具体的な実践の見直しを図ること。

(2) 適応指導教室事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①不登校対策事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導教室「緑のまきば」の充実 ○連絡会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○25名の通室者があり、そのうち17名が復帰した。 ○本人や保護者、学校関係者とのケース会議を個々の状況に応じて月1回程度実施した。 ○月1回、保護者会(あったまる会)を実施し、保護者の心のケアを図った。

施策評価	B
評価理由	半数以上の児童・生徒が、復帰した。
今後の課題	さらに復帰者の増加を図ること。

(3) 教育相談事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①個性を生かす生徒指導・教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問指導の充実 ○スクールカウンセラーの活用 ○生徒指導長欠対策協議会の開催 ○生徒指導資料の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校へ年2回訪問するとともに、学校の要請に応じて訪問指導を実施した。 ○各中学校に1名配置。教育相談の充実を図った。 ○生徒指導会議に併せて実施した。 ○各学校訪問後、生徒指導上配慮する児童生徒に関する資料を作成した。
②教育相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○面接相談、電話相談事業の推進 ○「子ども相談室」の充実 ○関係機関との連携強化 ○校内教育相談体制の充実 ○訪問指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談室 面接相談217件、電話相談259件への対応を行った。 ○こども相談室 面接相談108件、電話相談41件への対応を行った。 ○スクールカウンセラーや医療機関等と連携して対応を図った。 ○各学校に応じて、教育相談週間を実施した。 ○訪問指導の必要に応じて実施した。
③教育相談研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般教員向け研修会を実施した。

施策評価	B
評価理由	個々の教育相談に十分に対応することができた。
今後の課題	子どもを取り巻く環境の多様化複雑化による、悩みを抱えた児童生徒、保護者、学級担任等の増加にあわせて、それぞれのニーズに合った対応の充実を図ること。

(4) 国際理解教育推進事業（英語教育の強化事業）

事業	事業内容（平成23年度目標）	平成23年度実績
①国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手（ALT）の活用 ○日本語指導員の派遣 ○小学校高学年における外国語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTを各小中学校に配置した。 ○日本語を解せない児童生徒のために日本語指導員を派遣した。 ○全ての小学校5・6年生における外国語活動の実施した。

施策評価	B
評価理由	ALT10名を活用し、全ての小中学校において国際理解教育の推進を図り、一定の成果を上げることができた。
今後の課題	平成23年度より小学校での外国語活動の必修化が始まり、小学校と中学校における指導の連携を更に推進すること。

(5) 教育広報及び情報教育推進事業

事業	事業内容（平成23年度目標）	平成23年度実績
①教育関係資料収集・活用・教育広報 ②情報教育の推進及び情報環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○教育センターホームページによる広報 ○教育資料の収集・活用・提供 ○学校間ネットワークを活用した教育資料の共有化 ○ICT活用研修の開催 ○ボランティアITコーディネーターの派遣、パソコン先生（東京電機大学） ○情報活用に向けた学校情報環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種教育情報の提供を週2～3回実施した。 ○報告書やHP等で教育情報の収集整理等を実施した。また、指導案をデータベース化し、市内職員が参照できるようにした。 ○各種教材資料の共有化を図った。 ○全職員を対象とした研修を年4回、教務主任や情報主任向け研修を年に2回実施した。また、要請に応じ、訪問研修も実施した。 ○東京電機大学の学生ボランティア1名を小学校に派遣した。 ○小学校の校内LANを整備するとともに、印旛中学校のパソコン教室リプレイスを実施し、ICT環境の整備を進めた。

施策評価	B
評価理由	校務システム導入によりセキュリティの強化を図ることができた。また、情報の環境を整理し、ホームページでの広報活動に努めることができた。
今後の課題	中学校のPCリプレイス、さらに職員が校務システムを効率よく活用できるようにすること。

(6) 特別支援教育の推進事業

事業	事業内容（平成23年度目標）	平成23年度実績
①特別支援学級の充実 ②就学指導の充実 ③通常学級に在籍する発達障害児童の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導計画の作成と活用 ○特別支援学級介助員の配置 ○就学指導委員会の開催 ○早期就学相談の実施 ○通常学級指導員の配置 ○校内支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導計画を作成し、一人一人に対応した指導を行った。 ○28名を配置した。 ○10名の委員により、年2回開催した。 ○5月に「就学相談会」を実施した。また年間を通し、個別の就学相談を実施した。 ○26名を配置した。 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育研修を定期的に行なった。

施策評価	B
評価理由	特別に支援を要する児童生徒の実態に応じ、通常学級指導員や介助員の適切な配置ができた。また、関係機関と連携し、早期就学相談を実施、円滑な支援教育・就学の充実に図れるようになってきた。
今後の課題	就学前児童の教育相談ファイルの存在を周知するとともに、成果と課題を分析し更に充実した内容とすることで、有効な活用を図っていくこと。

(7) 小中学校等施設整備改修事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①安全な学校施設の推進	○小・中学校施設の整備・充実	○木刈中学校大規模改造工事実施設計業務を実施した。
②ゆとりと潤いのある学校施設づくりの推進	○小・中学校施設の改修及び校庭整備の充実	○小倉台小学校防水改修工事（1期工事）を実施した。 ○印旛・本荏中学校耐震改修工事を実施した。
③学校施設の有効活用	○余裕教室活用指針に基づく有効活用の推進	○余裕教室がないため未実施。
④設備・備品等の整備充実	○小・中学校及び公立幼稚園の計画的な備品整備	○管理備品・教材備品・図書備品については、小・中学校からの要望等を踏まえ、必要性を見極めた適正な整備を進めた。また、中学校においては新学習指導要領の実施を見据え、対応教材の充実に努めた。
⑤学区の適正化	○通学区域の検討と部分的な調整	○通学区域が指定されていない千葉ニュータウン中央駅北側の区域について、マンション建設に伴う平成24年度からの入居に対応するため、通学区域審議会での審議を経て通学区域を設定した。
施策評価	B	
評価理由	各学校の必要性を見極め、適正な整備を進めることができた。	
今後の課題	備品の効率的な管理方法の検討及び経年劣化に伴う各施設の改修を計画すること。	

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 学校安全事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①安全教育の推進	○交通安全教室の開催 ○防犯教室の開催	○事前打合せ会を行い、市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。
②児童生徒の安全確保	○防災訓練・防犯訓練等の指導・助言 ○緊急対応マニュアル作成の指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（全小・中学生対象） ○スクールメールシステムの活用（全小・中学校） ○自動体外式除細動器（AED）の配備（全小・中学校） ○防災無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声）	○スクールガードリーダーを活用した。 ○緊急対応の実践と見通しを図った。 ○市内全小学生に貸与した。 ○新しいメール配信システムを継続活用し、各学校で家庭への登録を呼びかけるようにした。 ○定期的に点検を実施し、バッテリーの確認を行うように指示した。 ○継続的に実施した。
③学校管理下における災害給付	○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入と活用	○学校管理下におけるケガ等の災害に対し、災害給付金を給付した。
④通学路の安全確保	○通学路の状況把握と定期的な点検活動の実施 ○安全マップの改訂・配布・活用	○各学校において、学期始めに教職員やPTAによる通学路の点検・交通安全指導を計画的に行なった。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配布した。
施策評価	B	
評価理由	交通安全教室に向けた市交通安全指導員と各学校安全主任の事前打合せ会を行ったことにより、連携体制が強化された。メール配信システムの加入率が高まった。（市平均72%→83%）	
今後の課題	最新の交通事情に対応した安全マップの改善と活用を図ること。	

(2) 開かれた学校づくり事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①開かれた学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの充実 ○開かれた学校づくりの推進 (学校・家庭・地域の連携) ○学校評価による学校教育の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○CMSを活用。全ての学校にHPを開設すると共に、更新内容の質と更新頻度が高まった。 ○学校支援ボランティア事業により、各学校における地域人材の活用を支援した。 ○学校評価の結果をHPや学校便りで公表した。
②職業体験学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「夢・仕事びったり体験」の支援 (全小学校6年) ○「印西市生き生き体験」の実施 (全中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内165事業所の協力のもとに実施した。 ○市内155事業所の協力のもとに全中学校で実施した。
③交流事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校や地域との交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校や幼稚園との交流事業を実施した。
④自然体験学習等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○自然観察会の実施 ○親子体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催。各20組の参加を得た。 ○年3回開催。各20組の参加を得た。

施策評価	B
評価理由	HPや諸活動により地域に開かれた学校となってきた。学校を取り巻く様々な人たちとの交流が図れた。
今後の課題	学校だけの取組に終わることのないよう、さらに諸機関、地域との連携も図ること。

Ⅱ. 生涯学習の推進・青少年の健全育成

1 生涯学習機会の提供

(1) 生涯学習機会の拡充

事業	事業内容（平成23年度目標）	平成23年度実績
①公民館を拠点とした学習機会の拡充	<p>○印西市民アカデミーの充実</p> <p>○ICT関連事業の実施</p> <p>○子供対象事業の充実</p> <p>○大人対象事業の充実</p> <p>○団体や行政等との共催事業の充実</p>	<p>○1学年25回20名，2学年18回20名で実施した。</p> <p>○中央駅前公民館において「パソコン講習.com」を実施。延べ72人が参加した。</p> <p>○中央駅前公民館において「初心者向けパソコン講座」を7回実施。延べ136人が参加した。</p> <p>○中央公民館で「ジュニアコース」を10回実施。21人が参加した。</p> <p>○中央駅前公民館において「わくわく探検隊」，「運動遊び『友達』」，「ジュニアものづくりチャレンジ講座」を実施した。</p> <p>○小林公民館及び本荘公民館において「どきどき発見隊」を実施した。</p> <p>○本荘公民館において「わくわくスポーツ教室」，「子ども和太鼓教室」，「子ども茶道教室」，「子ども生け花教室」，「わくわくふるさと探検隊」，「夏休み工作講座」を実施した。</p> <p>○印旛公民館において「夏休み工芸室」，「幼児教室『親子であそぼう』」，「カヌーに挑戦!!」，「いんばボカボカタイム」を実施した。</p> <p>○中央駅前公民館において「はつらっクラブ」，「季節の料理講座」，「地域デビューのおためし講座」，「中央駅前発木下まち並み見学隊」，「ふるさと印西発見」を実施した。</p> <p>○印旛公民館において「いんばボカボカタイム」番外編」，「みんなのいけばな」，「いきいき3B教室」，「初心者向けパソコン講座」を実施した。</p> <p>○小林公民館において「小林カレッジ」，「味わい工房」，「PTA広報づくり講座」を実施した。</p> <p>○印旛公民館において「親子野外学習教室」を実施した（いには野小明日を育てる会と共催）。</p>
②図書館における学習機会の充実	○講座及び事業の充実	<p>○各館において幼児・小学生を対象におはなし会を開催した（年間1，771人が参加）。</p> <p>○各館において図書館探検隊，図書館クイズ，科学あそび，クリスマス会，歴史・郷土講座等各種事業を実施した。</p> <p>○出前講座（年4回），読み聞かせ（西の原保育園・福祉センター・イオンホールにて年6回，駅前センターにて毎月1回），つどいの広場毎月第3金曜日，図書室環境整備・配置相談2校に講師を派遣した。</p> <p>○市民アカデミー（16人），中学生職業体験（33人），小学生就業体験（28人），高校生インターシップ2校（5人），中学生福祉ボランティア活動1校2回（14人）の実習受け入れを行った。</p>
③市民の学習活動への支援	○出前講座の充実	○43講座を開催し，計1，175人が参加した。
④人権学習の充実	<p>○人権同和研修会への参加及び啓発</p> <p>○家庭教育事業及び公民館講座への設定</p>	<p>○県主催社会人権研修会へ参加した（2回）。</p> <p>○県主催社会人権教育指導者養成講座へ参加した（3回）。</p> <p>○家庭教育シアターフォーラムで人権講座を実施した（12回179名参加）。</p>

施策評価	B
評価理由	○市民のニーズにあった講座及び事業が概ね実施できた。
今後の課題	○多様化する市民ニーズの把握に努め、事業内容の充実を図ることが必要。

(2) 生涯学習関係団体の活動支援及び連携強化

事業	事業内容（平成23年度目標）	平成23年度実績
①公民館を拠点に活動する団体の育成及び活用	○生涯学習関連事業等に対するボランティアの育成及び活用	○「印西ITボランティア」を活用し，中央駅前公民館「初心者向けパソコン講座」を実施した。
②団体間交流及び世代間交流の促進	○団体間交流の支援	○各公民館においてサークル連絡協議会の支援を行った。

③生涯学習団体の活動支援	○世代間交流事業の充実	○中央公民館で実施の「市民アカデミー」の講座において、木下小の児童と交流を図った。
	○団体・グループ等への指導・助言	○中央駅前公民館において「印西ITボランティア」への活動場所の提供と使用機材の貸し出しを行った。 ○小林公民館において「地域づくりと公民館」を実施し、小林公民館利用者・利用団体を主な対象とした公開講座を行った。

施策評価	B
評価理由	ITボランティアの育成については継続して実施した。また、サークルを中心とした支援については各公民館で対応した。
今後の課題	各種団体の自立出来るような支援体制が必要。

2 生涯学習ネットワークの形成

(1) 生涯学習情報の拡充

事業	事業内容(平成23年度目標)	平成23年度実績
①生涯学習ガイドの拡充	○生涯学習関連情報の収集と提供	○150部発行。講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。 ○各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口への配布を行った。 ○市ホームページへの掲載を行った。
②図書館の利便性及び充実度の向上	○図書館資料の充実 ○行政情報発信基地としての資料提供	○利用者の多様なニーズに対応できるよう各館の地域性に合わせ、一般・郷土・参考等資料提供に努め、図書整備の充実を図った。 ○郷土資料コーナーの設置及び、郷土資料、行政資料の収集・整備に努めた。 ○市の情報及び地域情報の展示を行った。

施策評価	B
評価理由	各館の特徴にあわせて図書館の資料を充実させ、提供することができた。 生涯学習ガイドについては内容を精査しながら、発行部数を1.5倍に拡充することができた。
今後の課題	安定した資料の購入を継続し、利用者のニーズや行政情報発信基地として対応できるよう資料整備を行う。

(2) 高等教育機関等との連携

事業	事業内容(平成23年度目標)	平成23年度実績
①大学等との連携強化	○大学等との連携協力 ○大学公開講座等の情報の提供 ○学校・社会教育関連施設の連携	○中央公民館で東京電機大学と連携し、「マイペースパソコン塾」を実施。延べ166人が参加した。 ○中央駅前公民館で実施の「わくわく探検隊」において、東京電機大学の協力のもと「1日大学生体験」を実施した(そうふけ公民館と合同)。 ○小林・本荘公民館で実施の「どきどき発見隊」において、東京電機大学の協力のもと「1日大学生体験」を実施した。 ○本荘公民館で実施の「わくわくスポーツ教室」において、順天堂大学の協力のもとコーディネーショントレーニングを実施した。 ○市民に対し、ポスター・チラシを提供し、周知を図った。 ○主催事業の周知を行った。

施策評価	B
評価理由	これまでと同様に大学と連携をとりながら事業を展開できた。
今後の課題	大学側と常に連携をとれる体制づくりが必要。

(3) 生涯学習推進体制の充実

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①専門職員の確保と指導力の向上	○研修の機会の確保	○社会教育主事講習の受講 (1名)。
②相談体制の推進	○相談体制の整備	○電話・窓口での生涯学習情報の提供 (公民館・コミュニティセンターのサークル・指導者等の紹介) を行った。
③社会教育関連施設及び機関の充実	○各種教材・機材の整備充実と活用 ○施設設備の充実	○保有機材の講習会を実施し、活用範囲の拡大に努めた。 ○中央駅前地域交流館の整備を行った。

施策評価	B
評価理由	社会教育主事講習で社会教育主事を1名養成した。また、中央駅前公民館から中央駅前地域交流館へと改修し、市民交流施設と位置付けた。
今後の課題	職員数の確保及び職員の専門性と指導力の向上を目的とした研修への参加・人的協力体制の構築

3 青少年の健全育成の推進

(1) 青少年健全育成活動の充実

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①家庭の教育力向上事業の充実	○家庭教育学級の公立幼稚園・小学校・中学校の開設及び活動内容の充実 ○学校との連携強化 ○社会教育施設及び機関等での家庭教育事業の実施	○公立幼稚園・小学校・中学校における必修家庭教育学級 (32学級)、学年家庭教育学級 (18学級)、計50学級の開設を行った。 ○必修家庭教育学級講座 (224回) を実施した。 ○家庭教育学級運営委員研修会 (2回 5月, 2月) を実施した。 ○家庭教育学級運営委員研修会における資料『家庭教育学級の手引き』及び情報の提供を行った。 ○家庭教育学級主事会議 (2回 4月, 2月) を実施した。 ○公民館を会場とした家庭教育シアターフォーラム (12回, 179人が参加) を実施した。
②家庭教育相談の充実	○相談体制の充実	○家庭教育指導員による指導・助言による相談体制の充実を図った。
③教育機関等との連携活動の強化	○印西市PTA連絡協議会等への支援 ○子供の放課後活動等支援事業の実施	○各団体主催事業への支援・協力を行った。 ○放課後子ども教室 (2教室, 32回 1, 219人が参加) を実施した。
④青少年健全育成関係組織の充実と連携活動の強化	○各種団体との連携活動の促進	○青少年相談委員連絡協議会・子ども会育成連絡協議会の活動・事業への支援及び協力を行った。
⑤青少年をとりまく社会環境の浄化と啓発活動の強化	○青少年をとりまく地域社会環境実態調査の実施 ○「こども110番」運営委員会への支援	○ポスター掲示, チラシ配布等の啓発活動を実施した。 ○こども110番運営委員会を開催した (1回 7月)。 協力家庭・事業者数 1, 472件

施策評価	B
評価理由	5項目の事業いずれも順調に実施されている。
今後の課題	地域や家庭の変化に伴う現代的課題に対応できるように支援の内容や方法の検討が必要。

(2) 地域・家庭教育力の向上支援

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①地域ぐるみさわやかコミュニティ推進活動の支援	○さわやかコミュニティ推進委員会への支援	○家庭、地域、学校との連携・融合を調整する市内全域対象の啓発活動を実施した。 ○さわやかコミュニティ推進委員会(14回)を実施した。 ○市内7中学校区において、地域住民への実践活動を実施した。(防犯パトロール・バザー・環境整備等) ○ほのぼの家庭・生き生き地域オープンセミナー(6回)を開催した。

施策評価	B
評価理由	新たに滝野中学校区で実施された。また、コミュニティセンターを核として活動を展開する中学校区もあり、さまざまな地域連携の形態が発生しており、地域と学校との連携が図れている。
今後の課題	各地域における事業の成熟度が異なるため、任意事業とし、地域の実情に合った事業の展開を図っていく。事業開始から約16年が経過しており事業(補助金交付)の見直しも必要と考える。

Ⅲ. 地域文化の振興と文化財の保護

1 芸術・文化の振興

(1) 芸術文化事業の充実

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①文化ホール事業の充実	○舞台芸術を鑑賞する機会の提供 ○市民の自主的な活動支援	○文化ホール主催で鑑賞型事業を7事業、計9回実施した。 ※震災による施設修繕工事実施の為、事業は10月からの開始となった。 ○ホールホワイエにて、ロビーコンサートを8回実施した。
②芸術文化事業の充実	○市民文化祭の実施	○第16回印西市市民文化祭を実施。 展示部門・催し部門(3事業)・大会部門(4事業)・発表部門(6事業) 期間:10月16日～11月13日 会場:中央公民館(展示・催し・大会)、文化ホール(発表)、総合福祉センター(大会)

施策評価	A
評価理由	市民文化祭の展示部門は出品者が減少し、見学者も減少したが、催しや各種集いなど市民文化祭全体としては参加者、見学者は前年度を上回り、目標を上回ることができた。
今後の課題	事業及び事業内容の精査を引き続き進め、事業の更なる充実に努める。文化祭の展示部門については、前年度より他の施設に変更しての実施を検討していたが、予定していた施設が東日本大震災により被災し休館となった為、実施できなかった。実施方法と併せ引き続き課題として検討する。

(2) 芸術文化活動の支援

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①芸術・文化活動の支援	○芸術文化団体活動への支援 ○子供たちの芸術・文化活動への支援 ○芸術文化情報の提供 ○文化、芸術の振興に関する基本的な方針の策定	○共催や後援など活動・発表の場についてのサポート、事業実施内容の情報提供を行った。 ○前年までの「伝統文化子ども教室」の実施方法が変わったため、情報提供は行ったが、活動支援ができなかった。 ○公民館・文化ホール等の窓口へのポスター、チラシ等の配布、関係団体への資料提供等を行った。 ○新印西市総合計画、ちば文化振興計画等上位計画の策定に併せ、内容の整合性を図るため、原案の見直し作業を行った。
②地域文化活動の支援	○地域文化活動の拠点支援 ○市民の地域文化活動への支援	○対象となる事業がなかった為、実績なし。 ○印西ふるさと案内人協会事業への支援の他、「印西歴史読本」刊行を記念して企画された印西地域史研究会の歴史講座事業を共催し、活動支援を行った。

施策評価	B
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。企画提案型の協働事業の提案など市民、市民団体の文化活動の多様化にどのような対応をすることで良い支援ができるか検討が必要である。
今後の課題	文化芸術振興に係る施策推進の為に、基本的方針の策定が急務である。事業仕分け等による国の施策内容の変化や民間も含めた文化施策や各種助成制度について研究し、導入や支援のあり方を検討する必要がある。

2 文化財の保護と活用

(1) 文化財の保護事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①指定文化財保護事業	○文化財審議会の運営 ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発	○7月と3月に2回の審議会を開催し、文化財行政に係る各種事業について審議した。 ○道作古墳群整備基本計画を策定した。また、指定文化財説明板を新規に2ヶ所設置し、文化財の周知に努めるとともに木下貝層土砂撤去工事を行い、現状の環境保全に努めた。 ○指定文化財の各所有者に対し、保存・管理に対する指導及び助言を行った他、伝承継承活動に対し補助金を交付し、支援を行った。 ○無形民俗文化財の公開事業の他、夏休み(8月25日(木))に木下貝層貝化石採集観察会を実施した。
②文化財基礎調査事業	○仏像調査・石造物調査の実施	○9ヶ所81躯の仏像調査を実施した他、石造物調査を旧本埜村中根地区において、また、市内埋蔵文化財分布調査を旧印旛村平賀、山田、瀬戸、吉高地区においてそれぞれ実施した。
③埋蔵文化財の保護事業	○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護	○該当遺跡がなく未実施。 ○発掘調査の実施により、開発行為から埋蔵文化財を保護した。

施策評価	B
評価理由	新規の事業も含め、事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	調査の結果について、報告書の刊行を行うなどその成果を公表する準備を進める他、基礎的な調査について、今後も計画的に取り組む必要がある。

(2) 文化財の活用事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①文化財の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 <ul style="list-style-type: none"> ①八幡神社の獅子舞(市) ②鳥見神社の獅子舞(県) ③別所の獅子舞(市) ④いなざきの獅子舞(市) ⑤浦部の神楽(県) ⑥鳥見神社の神楽(県) ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休み(8月25日(木))に木下貝層貝化石採集観察会を実施した他、小学校への民具資料の出前講座を9月から2月に実施し、多くの児童の参加を得た(4年生:4校<240名>, 3年生:3校<159名>)。 ○公開事業実施日 <ul style="list-style-type: none"> ①平成23年4月17日 ②平成23年5月3日 ③平成23年8月24日 ④平成23年9月23日 ⑤平成23年10月16日 ⑥平成23年10月17日 ○該当する箇所がなく事業未実施。 ※資料館事業参照(出土品の展示及び出土品を教材とした体験教室の実施)
②印旛歴史民俗資料館運営事業	○資料館事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の展示、収集、整理・保管、調査研究、普及事業を実施した。 ・展示事業(平成23年3月11日～6月3日まで被災のため休館)として、常設展示(見学者数886人)、企画展示(第3回企画展示「東日本大震災と資料館の取り組み」)を実施した。 ・普及事業として資料館講座等を実施した。

施策評価	B
評価理由	東日本大震災の影響により、無形民俗文化財公開事業の内一事業が中止、一事業が内容の一部変更を余儀なくされた他、歴史民俗資料館が一時休館せざるを得ない状況であった。そのような状況であったが、事業については概ね達成されたと評価する。
今後の課題	震災の影響を加味した評価となった。今後については事業計画に沿って進めていく他、歴史民俗資料館にて震災後の取り組み状況を企画展示したように、新規事業や既存事業の見直し等、事業全般について検討を進める。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史刊行事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市史編さん計画の整備 ○市史の調査研究 ○市史講座等の実施 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○作成に向けて調査・研究を実施した。 ○馬場遺跡出土資料の再調査を行った。 ○1月28日に市史編さん講演会「江戸時代の印旛沼」を実施し、67名参加を得た。 ○既刊616冊を頒布した。

施策評価	B
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	合併後の新たな「市史編さん事業」について、計画的に取り組む必要がある。

(2) 地域史料保存活用事業

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域史料の調査及び収集 ○地域史料の整理保存及び活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○行徳地区個人宅から古文書を借用し、概要調査を実施した。また、徳性院において十一面観音開帳に伴う記録調査を実施した。 ○地域史料整理目録の電子データ化を進めた(香取家等19件)。
②歴史公文書の収集、整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史公文書の引継移管 ○歴史公文書の調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○23年度引継(58箱 825件) ○本郷地区文化財倉庫の歴史公文書資料の確認を実施した。

施策評価	B
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	新市域に対応した地域史料の調査と地域史料の整理保存を計画的に進める必要がある。

IV. スポーツの振興

1 スポーツ環境の整備

(1) 体育施設利用促進事業

事業	事業内容(平成23年度目標)	平成23年度実績
①利用者の視点に立った施設運営	○スポーツ施設の管理・運営	○各施設の利用状況 総合体育館 73,228人 陸上競技場 15,117人 野球場 52,473人 テニスコート 67,749人 弓道場 755人 多目的広場 34,189人 トレーニングルーム 8,163人 ○各施設の管理実績 ・野球場(8ヶ所) 内野整備 143回 除草 52回実施 ・テニスコート(8ヶ所) コート整備 92回 除草 17回実施
②学校体育施設利用の推進	○学校体育施設の利活用の推進	○市内小中学校29校を一般開放し、225団体・4,077人が利用した。 稼働率 小学校 86% 中学校 89%
③スポーツ施設利用の多様化への対応	○民間施設の有効活用	○各施設の利用状況 東京電機大学平岡グラウンド 27,796人 六軒河川敷広場 2,500人 印旛高校跡地野球場・グラウンド 4,522人

施策評価	B
評価理由	震災の影響により一時期、利用制限のあった施設もあるが、概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	一部施設においては、大会規模により駐車場が必要である。

2 スポーツ機会の充実

(1) 生涯スポーツ振興事業

事業	事業内容(平成23年度目標)	平成23年度実績
①スポーツ情報システムの充実	○公共施設予約システムの有効活用 ○スポーツ情報の集約と多様な情報の提供	○公共施設予約システム 登録数 2,900組(152組の増) ○市ホームページ、体育協会ホームページ、広報紙へ各種行事等を掲載し、情報提供を行った。また、体育協会(年3回)の機関だよりの発行を支援した。
②市民参加型スポーツの普及・振興	○市民ニーズに対応した各種スポーツ教室の支援 ○高齢者のスポーツ活動の支援	○スポーツ教室の開催及び支援 (全11種目 参加人数2,456名) 新たにヨガ・体操教室を開催 ○指導者派遣事業やスポーツ備品等の整備及び貸出しを実施した。
③スポーツによる健康づくりの推進	○ニュースポーツ教室・大会の支援	○スポーツ推進委員によるショートテニス教室(10回)及び大会(2回)を開催した。
④市民ぐるみスポーツイベントの推進	○スポーツセミナーの開催	○気軽にできるエクササイズ・ストレッチの講座を実施した。
⑤スポーツイベントの誘致	○イベントの開催や各種スポーツ大会・教室の支援 ○大規模なイベントの誘致	○実行委員会主催によるラグビーまつり・正月マラソンの開催を開催支援した。 ○平成20年から引き続き関東大学女子駅伝を開催した。

施策評価	A
評価理由	従来の大会・教室に加え新たにリフレッシュ教室(ヨガ・体操)を行い、機会の増加を図ることができた。
今後の課題	市民ニーズに応じたスポーツ機会の更なる拡充が必要である。

3 スポーツ推進体制の整備

(1) スポーツ団体と指導者の育成

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①スポーツ指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員活動の推進 ○スポーツ少年団指導者の拡充と資質向上 ○生涯スポーツ等指導者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育行事の企画・立案を行った。(委員数30名・平均出勤数15日) ○県スポーツ少年団認定員養成講習会に参加した。(7名) ○県・郡主催のニュースポーツ研修会等に参加した。(28名)
②スポーツリーダーバンクの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツリーダーバンク登録者の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や各スポーツ団体等に指導者を紹介できるよう備えた。
③スポーツボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツボランティア活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツフェス、関東大学女子駅伝、正月マラソンをボランティアスタッフと連携し、運営した。
④スポーツ団体等の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会への支援と連携 ○スポーツ少年団への支援と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会へ補助金を交付し、運営支援や市民大会等の開催を支援した。 ○スポーツ少年団へ補助金を交付し、市交流大会の実施や各大会の開催を支援した。
⑤競技力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○市民スポーツ大会の開催 ○郡市民体育大会・県民体育大会への選手派遣 ○トップレベル選手との交流機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会が中心となり、17競技30大会の開催を支援した。 ○郡市民体育大会において、17競技25種目、全ての競技に参加した。【総合順位 第2位】 ○ラグビーまつり及び関東大学女子駅伝の開催によりトップレベル選手との交流機会を提供した。

施策評価	B
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	各団体共に充実した活動を行っており、継続的な支援が必要である。

(2) 総合型地域スポーツクラブの設立

事業	事業内容 (平成23年度目標)	平成23年度実績
①総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの設立支援 ○総合型地域スポーツクラブの充実 ○市民への啓発活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○候補地区にて説明会を行った。 ○スポーツ備品等の貸出し、活動場所の確保による支援を行った。 ○総合型地域スポーツクラブの入会案内等PR活動の支援を行った。

施策評価	B
評価理由	新規設立候補地区において、説明会を行うことができた。既存のスポーツクラブへはさまざまな面での支援を行うことができた。
今後の課題	総合型スポーツクラブの課題として「指導者及び会員の確保」があり、既存スポーツクラブも順調に活動しているが、同じ問題を抱えている。(新規スポーツクラブを設立する場合においても同様)

おわりに

1 評価内訳

具体目標における主な事業毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 学校教育の充実

1 健やかな心と体を育む教育の推進

番号	重点施策	評価
(1)	きらり輝く子供育成事業	B
(2)	読書活動推進事業	B
(3)	学校給食事業	B
(4)	保健体育事業	B
(5)	豊かな心を育む教育推進事業	B

2 活力ある学校づくり

(1)	学習指導の充実事業	B
(2)	適応指導教室事業	B
(3)	教育相談事業	B
(4)	国際理解教育推進事業（英語教育の強化事業）	B
(5)	教育広報及び情報教育推進事業	B
(6)	特別支援教育の推進事業	B
(7)	小中学校等施設整備改修事業	B

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1)	学校安全事業	B
(2)	開かれた学校づくり事業	B

II. 生涯学習の推進・青少年の健全育成

1 生涯学習機会の提供

(1)	生涯学習機会の拡充	B
(2)	生涯学習関係団体の活動支援及び連携強化	B

2 生涯学習ネットワークの形成

(1)	生涯学習情報の拡充	B
(2)	高等教育機関との連携	B
(3)	生涯学習推進体制の充実	B

3 青少年の健全育成の推進

(1)	青少年健全育成活動の充実	B
(2)	地域・家庭教育力の向上支援	B

Ⅲ. 地域文化の振興と文化財の保護

1 芸術・文化の振興

(1)	芸術文化事業の充実	A
(2)	芸術文化活動の支援	B

2 文化財の保護と活用

(1)	文化財の保護事業	B
(2)	文化財の活用事業	B

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史刊行事業	B
(2)	地域史料保存活用事業	B

Ⅳ. スポーツの振興

1 スポーツ環境の整備

(1)	体育施設利用促進事業	B
-----	------------	---

2 スポーツ機会の充実

(1)	生涯スポーツ振興事業	A
-----	------------	---

3 スポーツ推進体制の整備

(1)	スポーツ団体と指導者の育成	B
(2)	総合型地域スポーツクラブの設立	B

※ 評価基準

A 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

B 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

2 施策別評価

主な施策における主な事業の評価内訳数は以下のとおり

番号	主な施策	具 体 施策数	主 な 事業数	主な事業の評価数		
				A	B	C
I	学校教育の充実	3	14	0	14	0
II	生涯学習の推進・青少年の健全育成	3	7	0	7	0
III	地域文化の振興と文化財の保護	3	6	1	5	0
IV	スポーツの振興	3	4	1	3	0
	計	12	31	2	29	0

3 まとめ

今回の点検及び評価の結果、I～IVの目標を達成するために掲げている全12の具体施策、31（昨年度と同じ）の主な事業中、前回の報告書と比較して、A評価が15減って2事業となり（全体比約55%→約6%）、B評価は15事業増、C評価は昨年度同様、該当なしとの結果でした。

昨年度から大幅にA評価が減少した結果となっておりますが、これは各事業において、これまでより高い目標を掲げたことが要因であり、事業そのものが停滞しているものではないと考えております。

今後は、今回B評価であった事業がA評価になるよう、更なる教育施策の推進に努めてまいります。

なお、学識経験者の皆様からは、主に次のような御意見をいただきました。

この御意見につきましては、報告書素案時にいただいたものです。報告書の記載内容など、すぐに反映できるものにつきましては、最終報告書に反映しております。

（学校教育分野）

市の重点施策を受けて、各事業の取り組みがなされており、これに対する評価も適切であると思います。

- ・学校教育で一番大切なことは、諸施策を受けて、教師がどれだけの準備（教材研究と資料）をして授業に臨んでいるかとの考えから、何校か参観させていただきました。

教材研究・資料の準備がされており、落ち着いた雰囲気の中で学習していました。当日、参観した学校では、「理科支援員配置事業」が行われており、その道のスペシャリストと担任で展開する、引きつける授業を見せて

いただきました。このような機会を多くの学校に広げていただきたい。

- ・学習指導の充実においては、多くの時間と労力をかけ、印西の子どもの実態把握と分析を教育センターが行っており、現場の学校では大変役立っていると考えます。
- ・指導主事の仕事は、魅力ある授業を行う教職員を育てることだと考えます。年間を通じて事業・研修を推進し、多くの教職員に指導したことに敬意を表します。

「施策評価」「評価理由」「今後の課題」は適切であると評価します。

(生涯学習分野)

- ・生涯学習機会の提供・生涯学習ネットワークの形成の評価は妥当であると思います。これらの評価を更に高めるために私の考えを述べます。

生涯学習が教育の中核であり、「生涯学習によるまちづくり」と言われて数十年が経過しております。しかし、一方で指定管理制度が導入され、他の市では本来の学習が後退し、趣味や個人の教養の育成にシフトしていると聞き及んでおります。勿論、私もそのような学習を否定するものではありません。しかし、公的機関が計画する学習とは、地域住民の学習意欲を高め、学んだ成果を地域社会の発展のために還元することにこそ意味があると考えます。こういう点から考えてみると、印西市の生涯学習課では、生涯学習機会の提供やネットワークの形成へ努力しており、特に生涯学習の中核の役割を担う公民館や図書館の活動を活発化させ、「生涯学習によるまちづくり」の考え方や実践が脈々と続いていることは素晴らしいと思います。

参考までに自分が印西市民アカデミーを8年間担当して思ったことは、住民一人一人が充実した人生、それも何か出来ることを社会に貢献したいとの意欲をひしひしと感じました。そのために、自分が住んでいる地域の歴史や自然・産業についてもっと学びたい、市の行政方針や実践について学びたい、幼児・児童との世代間交流を図りたい、地域の高齢化社会に伴い地域の人々が手を携えて安全・安心のまちづくりについて学びたい等々多くの人がこの様な学習内容を望んでおりました。これら住民が求める学習内容と共に、学校との連携による児童・生徒対象の事業（例えば小学生の通学合宿や中学生の子育て体験等）の更なる充実と拡張、また福祉や環境など様々な課との連携による今日的な課題を横断的に進める学習を希望します。

一方、点検・評価によると、人権教育の中で同和教育が弱いように思えます。更に公民館等で活躍している団体やグループに対し、生涯学習について指導・助言を積極に行うと同時に、住民の学ぶニーズに応ずる情報の収集や

提供、相談体制の整備を更に進められることを希望します。これら生涯学習が充実するかどうかは、職員数の確保と職員の専門性や指導力を向上させることが急務であります。財政が厳しいと言われていますが、生涯学習を充実させることはまちづくりの大きな要因になることを御理解いただいて、ぜひ職員の充実を図ってもらいたいと考えます。

- ・青少年健全育成の推進への取り組みの評価も妥当と考えます。

青少年健全育成については、誰もが努力しなければならない課題と思いつつも、その実践になると難しい状況であると常々思っています。特に、学校と連携して進めなければならない家庭教育学級が以前と比べて停滞しているように思います。それも常設の家庭教育学級でさえ、働く母親が多くなったり、関心が低かったりして出席率が低く、各学校で苦悩している話を聞きます。何と云っても青少年の健全育成は小さい頃からの家庭教育が大切です。是非、この打開策を考え実践してもらいたいと思います。例えば就学時健康診断の日や入学体験の日にも開催するとか、母親や父親が集まりやすい時間帯や曜日を選んで開催するとか、学校との連携で柔軟な発想が求められます。また、シアターフォーラムと家庭教育学級との連携は印西市独特のものであるので大事にしたいし、この取り組みについて、もっと保護者を始め大勢の人に知らせてほしいと考えます。

一方、青少年の健全育成については、小さい頃から様々な人と触れ合わせ、様々な体験をさせることが基本です。異年齢の小学生、小学生と中学生や高校生、また地域の様々な大人との交流を通して逞しく成長すると考えます。青少年健全育成協議会やPTA・さわやかコミュニティ等各種教育団体をリードして、更に事業の充実を希望します。ところで、放課後子ども活動支援事業はこれからの事業として大いに期待します。これと合わせて、保育課で実施している「学童保育事業」の充実について、学校、生涯学習課も連携してできないものかと考えます。なぜならこの事業は異年齢の子ども達で構成されているので、うまくいくと上級生が下級生をリードしたり、下級生は上級生の優しさや逞しさに触れたりして、現在では少なくなった、子ども達ならではの社会を形成できるからです。また、保護者に向けての家庭教育も進め易いと考えられます。

最後に、地域の大人達全てが地域の子どもの善行等を認め、学校や教育委員会へ電話で報告する「子どもの素敵な心見つけホットライン」の設置を提案します。

- ・地域文化の振興と文化財の保護への評価項目も妥当と考えます。

芸術文化事業について、展示部門の出品者や見学者が減少したとありますが、会場の問題であるのか、それとも別の問題があるのか十分な検討が必要です。ところで文化財の保護について、指定文化財説明板を2ヶ所設置したとあり、有り難く思いますが、指定されていない文化財や史跡につ

いても、案内板を計画的に設置されることを願います。また、過去に甚大な水禍を受けた発作や亀成地区、その地区の人々の生活の知恵から生まれてきた水塚の保存について一考をお願いします。もう遅いかも知れませんが水禍の歴史の証拠として…。更にもう始められていると思いますが、本埜・印旛地区の路傍等に佇む石造物調査も急務かも知れません。これも計画的に進めないと開発事業の関係で消滅するのは時間の問題であると危惧します。文化財や市史資料等は活用することや多くの市民に理解してもらうことに、より意味があると考えます。そういう点、印旛歴史民俗資料館を中心に積極的に実施されていることは素晴らしいと思います。さらに、未来に生きる子ども達がもっとこれら文化財等を学ぶ機会があればと常々思っていますが、学校の教師の意識の変容と社会科教育の改善が必要です。学校教育課と連携を図り地域に根ざした教育を推進したいものです。

最後に、全体的に言えることは、参加人数などを延べ人数で集計していますが、問題点の考察などをする時にきめ細かい分析は難しいかと考えます。

(スポーツ振興分野)

- ・各スポーツ施設の利用状況からみると、市内外の利用者を問わず利用率は極めて高く、他市と比較しても施設の充実が図られていると感じられ、特に総合体育館は様々な大会、イベントにも活用されており、今後さらに利用率が上がるような事業展開を推進するとともに、適正な管理・運営に努めていただきたい。

また、新たなスポーツ施設として、パークゴルフ場と旧印旛高校の跡地活用によるスポーツ広場等の整備を行っていくと伺っており、他の施設同様に多くの市民が利用しやすい施設となるよう期待します。

- ・生涯スポーツの振興では、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に取り組めるスポーツの推進、さらに平成24年度にクライミングワールドカップが印西市で開催されたことから、これを契機として、市の特徴的なスポーツ施設であるクライミングウォールの一層の活用を図り、クライミングスポーツの推進に努めていただきたい。

また、スポーツは健康・体力づくりのほか、多くの仲間づくりや社会のルール、マナーなどの情操教育にも大きく貢献するため、様々な手法により、市民がより一層スポーツに親しむ機会の充実が図れるよう検討されたい。

- ・総合型スポーツクラブの育成については、説明会を行うなど一定の前進がみられるが、今後は地域の特性や実情を十分把握し、検証を行うとともに慎重に事業を進めていただきたい。

貴重な御意見，ありがとうございました。
今後の教育施策に生かすため，検討してまいります。

この点検評価報告書の作成の意義として，市教育委員会がその所掌事業について自己点検を行うことで現状を把握し，計画の実現に向けて事業の精査を図り，外部学識経験者の皆様からいただいた御意見を検討し，翌年度の教育施策に反映させることであると考えております。

つきましては，今回の点検・評価を行う過程で浮かび上がった課題の解消及び事業の合理化に努めるとともに，市民の皆様の御意見を取り入れながら，必要に応じて現行施策の見直しを図ることで重点施策の進捗，教育施策に掲げる目標の達成に努めてまいります。